

令和7年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立安方中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

1 学年は全国・区平均と比べると高い。2 学年は区・全国がともに高い。3 学年は区より低い
が全国よりは高い。高い分野の成果としては、計算を中心とした文字式の指導をより細かく丁寧
におこなう場面では、身近にあり理解しやすい事例を提示しながら授業を展開した。また、基礎・
基本の理解と定着に重点をおき、そこで学んだ複数の知識を融合的に使い応用的な問題を解く力、
主体的に問題に取り組む力を育てることができた。

(2) 課題

特に基礎力が定着していない生徒に対してのフォローが必要であり重要である。そのため、今
後も習熟度別による少人数指導を重視し、基礎グループには特に手厚く指導をおこなう。その上
で、支援の必要な生徒の個別指導を行っていく。また、基礎的な内容を理解している生徒に対し
ては、既習事項を確認しながら、新たな学習内容や発展的な課題に取り組みせる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	区の目標スコアよりも上回っている。	/	/
第2学年	区のスコアよりも下回っている。	区の目標スコアよりも下回っている。 (第1学年時)	/
第3学年	区のスコアよりも下回っている。	区の目標スコアよりも上回っている。 (第2学年時)	区の目標スコアよりも上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率が、区の目標値、区 の平均正答率、全国の平均正答率より、 それぞれ上回っている。	校内平均正答率が、区の目標値、区 の平均正答率、全国の平均正答率より、 それぞれ上回っている。	/

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率が、区の目標値、区 の平均正答率、全国の平均正答率より、 それぞれ下回っている。	校内平均正答率が、区の目標値、区 の平均、全国の平均正答率より、それ ぞれ下回っている。	/

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率が、区の目標値、区の平均正答率より、それぞれ下回っている。全国の平均正答率よりは上回っている。	校内平均正答率が、区の目標値、区の平均正答率よりそれぞれ下回っている。全国の平均正答率よりは上回っている。	

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習熟度別少人数指導を生かし、演習時間や演習量を調整することで、基礎・基本的な内容を確実な定着を目指す。ドリルパークなどタブレットを使った個人学習も進める	文章問題や発展的な内容の問題など、学習事項に応じた演習問題を授業内で取り組み、様々な事象に応用できる力を身につけさせる。	自分で解けるようになりたい問題を設定させ、生徒ごとの課題を認識させることで生徒が取り組むべき内容を明確にさせる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
タブレットドリルなどの活用を含めた演習を毎時間の始めに行う。習熟度別少人数指導を生かし、演習時間や演習量を調整することで、基礎・基本的な内容を確実な定着を目指す。	文章問題や発展的な内容の問題など、学習事項に応じた演習問題を授業内で取り組み、様々な事象に応用できる力を身につけさせる。	自分で解けるようになりたい問題を設定させ、生徒ごとの課題を認識させることで生徒が取り組むべき内容を明確にさせる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
タブレットドリルなどの活用を含めた演習を毎時間の始めに行う。既習事項の確認を行い基礎的・基本的な内容の定着を目指す。	既習事項を用いて、そこからより複雑な事象を考察し、それに適した知識を用いて問題を考えることで基礎的・基本的な内容の定着を目指す。	自分の進路に則した課題を設定し自ら進んで学習に取り組む姿勢を育むよう指導する。